建築用地への奉献について
――建築論書『マヤマタ』を中心に――

出　野　尚　紀

1. はじめに

古代インドのヒンドゥー建築論書には，単に建築だけでなく，建築前の計画段階から建築後の修復までおよそ建築・建設に関わると考えられたすべての事項を記すものと基礎工事から完工までの事項のみを記すものがある．前者の建築論書には，ヴァーストゥ・プルシャ・マンダラの描画に代表されるヴァーストゥ・プージャーとまとめられる一連の建築前儀礼が記述される部分がある．その部分は，記述順では，定義的事項に続き，村落・都市においてゾーニングをする直前にあたる．しかし，記述の流れとしてはもっともな位置であるが，儀礼段階で場所が不適となったとき，再び場所の選定からやり直すことは，浪費が大きいと思われるので，工程としては，ゾーニングを行った後で実施する前や，基礎の作成という実際の建築工事に入る前になるだろう．

代表的なヴァーストゥ・プージャーの段階には，儀礼的耕作，ヴァーストゥ・プルシャ・マンダラの構成，ヴァーストゥ・デーヴァターの降臨位置，ヴァーストゥ・プルシャの描画と急所，ヴァーストゥ・バリの献供がある．儀礼的耕作から降臨位置まではすべての事項を記す建築論書のどれもに見られるが，後のものは記述がないものもある．とくに献供は『マヤマタ』と『マーナサーラ』の2書にしか詳細な記述がない．

建築前儀礼が21世紀になっても行われていることは，筆者もウッタル・プラデーシュ州内を旅行中に実見したことがあり，南インドの実例報告[1)]がある．しかし，これまでヴァーストゥ・プルシャ・マンダラの構成やマンダラの急所など忌避するべきことがらの論述は見られるが，献供の文献記述を考察したものは見られない．そこで本稿では，建築論書『マヤマタ』に記されている建築用地に降ろしたヴァーストゥ・デーヴァターに奉献するヴァーストゥ・バリの記述内容を中心に考察を行う．

2. 建築論書『マヤマタ』

Myは，9世紀から12世紀の間にチョーラ朝下のタミルナードゥ地方で編纂されたヒンドゥー建築論書であり，奉献儀礼については第8章に記されている．

奉献をする対象である45のヴァーストゥ・デーヴァターがヴァーストゥ・プルシャ・マンダラ上に，中心にブラフマー，その四方にアールヤなど12のヴァーストゥ・デーヴァターが，そして，外周にイーシャなど32のヴァーストゥ・デーヴァターが配される．ここでは，ヴァーストゥ・プルシャ・マンダラに配置するときとは異なり，ブラフマーから四方，外周，四隅の順で記述される．なお，ヴァーストゥ・デーヴァターは神格の名称を使っているが，対応する神格の権能をそのまま受け継いでいるわけではなく，あくまでも土地を鎮めるために降ろされたモノとみるべきである．また，ヴァーストゥ・プルシャ・マンダラの枠外の四隅に4神が配される．

3. 個別の奉献物

まず個別の奉献物について以下に一次文献 My の p. 50 と p. 52 にある第8章第2詩節から第15詩節を翻訳して示す．なお原典のテクストも注に付した．ブラフマーの場所は，いくつもの芳香のする花輪，香煙，乳製品，蜂蜜を入れたギー，そして，ミルク粥と焼き飯が指示されている[2]．

アールヤには，切り分けた果実，食べられるようにした豆，そして，ゴマがあり，ヴィヴァスヴァトには発酵乳が，ミトラには雑穀が置かれる．ブーダラ[3]には，牛乳が〔指示されている〕．以上のように〔ブラフマーの〕まわりの〔ヴァーストゥ・デーヴァターの〕奉献物は伝えられている[4]．

パルジャンヤの〔場所は〕溶かしバターが，ジャヤンタ[5]のところには，花を添えて新鮮なバターが〔供えられる〕．インドラには臓物と花が，アーディトヤ[6]には蜂蜜といくつもの球根が，サティヤには蜂蜜が〔供えられ〕，ブリシャに新鮮なバターを供える．アンタリクシャ[7]の奉献物に豆とラックの粉を与えるべきである．アグニ[8]には乳製品，溶かしバターと抹香が，プーシャンには莢のついた食べ物とミルク粥が〔供えられる〕．ヴィタタにはインドビエが〔供えられ〕，ラークシャサにはラム酒が奉献物に望まれる．ヤマには莢のついた食べ物とクリサラを，ガンダルヴァには混じり気のない香水を〔供えるべきである〕．ブリンガラージャには海の魚があり，ムリシャには魚と炊いた米と知られてお

り，ピトゥリ[9]には絞り油が，ダウヴァーリカには種が奉献物である．スグリーヴァには砂糖菓子が，プシュパダンタには花を入れた水が，ヴァルナにはミルク粥とモロコシが〔供えられ〕，アスラには血液によって奉献物が〔作られる〕．ショーシャにはゴマと一緒に穀物粒が，ローガには干し魚が，ヴァーユには煮出したカダムバ樹が，ナーガには酒と焼き飯があるべきである．ムキャの〔場所には〕モロコシの粉，発酵乳とギーが考えられる．バッラータには糖蜜で炊いた飯を，ソーマには牛乳で炊いた飯を与えるべきである．ムリガには干し肉を，アディティ[10]には砂糖菓子を与えるべきであり，ウディティには食べられるようにしたゴマ，イーシャには乳で調理した米とギーが〔供えられる〕[11]．

サヴィンドラの〔場所には〕焼き飯とモロコシが，サーヴィンドラには香を入れた水が，それからインドラとインドララージャにはヤギの油とインゲン豆の粉が〔供えられる〕．ルドラとルドラジャヤには煮た肉を，アーパとアーパヴァツァには白睡蓮，魚肉，巻貝と亀の肉を〔供えるべきである〕[12]．

チャラキーの〔場所には〕酒と溶かしバターを〔供えるべきであり〕，ヴィダーリーの〔場所では〕塩が奉献物であり，プータナーの〔場所には〕搾ったミロバランのゴマを，残り（パーパラクシャスィー）の〔場所には〕インゲン豆が入った水を〔供えるべきである〕[13]．

4. 建築論書『マーナサーラ』

同じく，北インドで5世紀にはまとめられていたヒンドゥー建築論書であるMs 第8章 bali-karma-vidhāna にも，奉献物の記述があるので，以下に要点のみを示す．

ヴァーストゥ・デーヴァターが同じように配置されている64マス以上のヴァーストゥ・プルシャ・マンダラへの奉献が述べられる．ブラフマーに花束，香水，香煙，牛乳，蜂蜜，溶かしバター，乳製品，炊いた米が供えられ，以下，アールヤに果物，ヴィヴァスヴァトにゴマ，炊いた米，ギー，ミトラにギー，マヒーダラに乳白色の樹液と同じ順番で49神への奉献物が記述されている．それらのまったく同じ奉献物なヴァーストゥ・デーヴァターは，ブリシャ，スグリーヴァ，プシュパダンタ，アスラ，ショーシャ，ローガ，バッラータ，ムリガ，アディティという外周の9神である．

5. その他の奉献儀礼

Ag の第40章は，64マスのヴァーストゥ・プルシャ・マンダラと配されるヴァーストゥ・デーヴァター，そして，ヴァーストゥ・プージャーを説く章であり，奉献物の記述がみられる．しかし，奉献物がすべてのヴァーストゥ・デーヴァターに記されていないうえ，配置と奉献物を一度に記述しているため筆記順も異なっており，My，Ms ともに場所と奉献物がともに同じものなところはない．

また，小倉1999で言及されている奉献儀礼は，『パードマ・サンヒター』を規範としているとあり，My などとは儀礼の名称が同じだけで，執行段階が異なっていることもあり，まったく違う内容となっている．

6. 小結

その記述において，同じヒンドゥー建築論書であるといっても My と Ms でも奉献物については，大きく違っており，Ms から My に直接的な関係はないと見られる．また，Ag の記述とはまったく異なっている．そして，My が製作されたところと同じ地域であっても20世紀末には，顧みられなくなっている．

この用地への奉献は，古代の段階では，建築前儀礼として建築論書に記されるほど正しく行われるべきモノであったが，後には廃れ，もはや名称のみが残っているだけで，他の儀礼に取って代われているといえる．

1）例えば，小倉1999において現地調査の結果が記されている．また，飯塚2010にもヴァーストゥ・デーヴァターへの奉献儀礼が建築前儀礼とは別の場面で言及されている．

2）gandhamālyaiś ca dhūpena payasā madhusarpiṣā / pāyasaûdana-lājaiś ca brahma-sthānaṃ samarcayet //2//（My p. 50 第8章第2詩節）

3）テクストでは mahīdhara だが，7章のヴァーストゥ・プルシャ・マンダラの記述に合わせた．

4）āryake phala-bhakṣyaṃ syān māṣânnaṃ ca tilāni ca / vivasvti vinikṣiptaṃ dadhi dūrvā ca mikrake //3// mahīdhare bhaved dugdham evam antar baliḥ smṛtaḥ /（My p. 50 第8章第3詩節第4詩節 ab パーダ）

5）テクストでは aindra だが，7章のヴァーストゥ・プルシャ・マンダラの記述に合わせた．

6）テクストでは bhāskara だが，7章のヴァーストゥ・プルシャ・マンダラの記述に合わせた．

7）テクストでは gagana だが，7章のヴァーストゥ・プルシャ・マンダラの記述に合わせた．

8）vahni- の意味に「火」があるので，ここではアグニを指す．

9）原文の nirṛtau は「東南の」という意味の nairṛta と関連するもので，ヴァーストゥ・デーヴァターの位置としては，ピトゥリが相当するので，ピトゥリを指すと考えられる．

10）アディティには，「アーデティヤの母」という意味があるので，この devamātṛ は位置からアディティを指すと考えた．

11）parjanyasyâjyam aindrasya navanītaṃ sa-puṣpakam //4// indre koṣṭhaṃ ca puṣpaṃ ca madhu kandāś ca bhāskare / satyake madhukaṃ dadyād bhṛśāya nava-nītakam //5// māṣaṃ rajani-cūrṇaṃ ca gaganasya baliṃ dadet / dugdhâjyaṃ tagaraṃ vahneḥ śimbânnaṃ pūṣṇi pāyasam //6// kaṅkv-annaṃ vitathe śīdhu rākṣase balir iṣyate / śimbânnaṃ kṛsaraṃ yāmye gandharve 'khila-gandhakam //7// bhṛgarāje 'bdhi-matsyaḥ syān mṛṣe matsyâûdanaṃ viduḥ / nirṛtau taila-piṇyākaṃ bījaṃ dauvārike baliḥ //8// sugrīve modakaṃ puṣpadankate puṣpa-toyakam / veruṇe pāyasaṃ dhānyaṃ śoṇitenâasure baliḥ //9// sa-tilaṃ taṇḍulaṃ śoṣe roge syāc chuṣkamatsyakam / svinnaṃ hāridrakaṃ vāyau nāge madyaṃ ca lājakam //10// dhānya-cūrṇaṃ hi mukhyasya dadhi sarpiś ca sammatam / gulâûdanaṃ tu bhallāṭe some dugdhâûdanaṃ dadet //11// śuṣkamāṃsaṃ mṛge dayāt devamātari modakam / uditau tila-bhakṣyeṇa kṣīrānnaṃ sarpir īśake //12//（My p. 50, 52 第8章第4詩節 cd パーダ–第12詩節）

12）lājaṃ dhānyaṃ savindrasya sāvindre gandhatoyakam / basta-medhas tathā mudga-cūrṇam indrêndrarājayoḥ //13// rudre rudrajaye māṃsaṃ svinnam āpâpavatsayoḥ / kumudaṃ matsya-māṃsaṃ ca śaṅkha-kacchapa-māṃsakam //14//（My p. 52 第8章第13詩節–第14詩節）

13）madyam ājyaṃ carakyās tu vidāryā lavaṇo baliḥ / pūtanāyās tilaṃ piṣṭam anyāyā mudga-sārakam //15//（My p. 52 第8章第15詩節）

〈一次文献〉

<Ms> *Manasara on Architecture and Sculpture: Sanskrit text with Critical Notes*, 7 vols. Ed. Prasanna Kumar Acharya. New Delhi: Munshiram Manoharal, 1995.

<My> *Mayamatam: Treatise of Housing, Architecture and Iconography*, 2 vols. Ed. Bruno Dagens. Kalāmūlaśāstra series, no. 14. New Delhi: Indira Gandhi National Centre for the Arts, 1994.

<Ag> *Agni Mahāpurāṇam: Sanskrit text, English translation and Index of Verses*, 2 vols. Ed. K. L. Joshi. Parimal Sanskrit Series, no. 53. New Delhi: Parimal Publications, 2001.

〈二次文献〉

飯塚真弓 2010「空間構造，神話，宗教実践から見るヒンドゥーの神々の関係性――南インド・チダンバラムの事例をめぐって――」『論集』37: 138–116.

小倉泰 1999『インド世界の空間構造――東京大学東洋文化研究所研究報告ヒンドゥー寺院のシンボリズム――』春秋社.

〈キーワード〉 建築論，儀礼，Mayamta，Mānasāra，Vāstu-pūjā，Vāstu-bali

（東洋大学東洋学研究所客員研究員）